

JET からの手紙

1年半

浜松市国際課 国際交流員

Daniel Huynh (フィン・ダニエル)

JET プログラムに参加してからあっという間に1年半が経ちました。私は今、静岡県浜松市にいます。

配属先の通知が来た時は嬉しかったのですが、そこで初めて浜松市という都市の名前を見て、どのようなところか分からなかったのが、少し心配になりました。すぐにグーグルマップを開き、街の様子を見たり、どこに近いのかを確認したりしましたが、それでも不安でした。恐らく他の JET 参加者も同じように配属先の自治体を調べたでしょう。今では配属先が浜松市で良かったと心から思います。

浜松市の国際交流員の業務

浜松市の国際交流員 (CIR) は浜松市役所と浜松市多文化共生センターの2つの事務所で勤務します。午前中は市役所で働き、午後からは多文化共生センターで働きます。主な業務は翻訳と通訳です。特に翻訳に関する業務が多く、内容は幅広いです。時には看板用の短い文章、時には何十ページに亘る書類の翻訳を行います。私たちの翻訳を街中で目にすることもあり、やりがいがある仕事だと感じます。浜松城にあるいくつかの看板の翻訳も、私たち浜松市の CIR が翻訳したものです。



翻訳の様子

通訳に関する業務は翻訳と比べると少ないですが、庁内における窓口での通訳、市長表敬訪問時の通訳およびイベント時の通訳を主にしています。

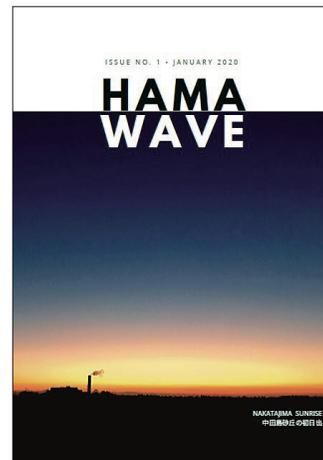


通訳の様子

私にとって通訳は難しい業務です。知っているはずの単語を忘れてたり、うまく発声できなかつたりして自信を無くすこともあります。それでも通訳する時には失敗したと思っても次に進まなければいけません。自信がなくても頑張って経験を積みめばいつか向上すると思います。

翻訳と通訳以外の業務もあります。CIR ニュースという月刊誌を発行し、私たちの国や文化、日本の生活で気づいたことなどを紹介しています。

浜松市多文化共生センターの業務では「世界の E-文化」というイベント 2020年1月号 CIR ニュース



を毎月開催し、CIR がイベントの企画・運営を担当します。このイベントは外国人ボランティアをゲストとして招き、英語で自分の国の文化や習慣を紹介してもらい、話し合います。その他の業務として浜松市職員向けの英会話教室も行っています。

浜松市での生活

配属先の通知文書が届いた時と比べ、私は浜松市をさらに知ることになり、今では誇りを持って浜松市について話すようになりました。知らない場所に行くことは確かに怖いですが、たくさんの楽しいことや、素晴らしいことも待っています。浜松市は最初に思ったよりも住みやすく、ここで出会った友達や同僚のおかげでこの1年半は山ほど多くの思い出を作りました。

例えば、来日してから2、3か月後のエピソードです。その時浜松国際ピアノコンクールが開催されており、コンクールの参加者は市民の家で演奏を披露することになっていました。仕事で知り合った友達が私に、演奏の際の通訳を頼んできました。私はできるかどうか心配でしたが、やると決めました。当日は少し難しい内容がありましたが、頑張って通訳しました。仕事の外でも浜松の市民と交流し、街の日常に参加し貢献できたことは、大変貴重な経験になったと思います。

他には、海外出張に行ったり、浜松市で開催した国際会議「都市間連携国際サミット 2019 浜松」で海外参加者のアテンドをしたり、「浜松カップ フェスタサンバ」というサンバイイベントではイベント運営のサポートを行ったりなど、初めての経験がいっぱいありました。国際会議の準備では、今までで一番大変な通訳や翻訳があり、難しかったのですが、スキルアップするためには良い機会でした。海外出張やサンバイイベントではいつもと違う業務を通じて、新しい文化を体験したり学んだりして、自分の考え方が広がったと思います。



フィリピンへの出張の様子

今後の CIR としての抱負

今後、浜松市の国際交流にさらに貢献しながらスキルアップをしていきたいと思います。特に、コミュニケーション力と人間関係の面で向上したいです。私は現在2年目で3年目も続けていくつもりですが、JET プログラム終了後は、CIR として得た経験を生かして日本で働き続ける予定です。

プロフィール



Daniel Huynh

イギリス、バーミンガム市出身。イギリスの北部の都市、プレストン市にあるセントラル・ランカシャー大学卒。2016年、名古屋外国語大学に留学。卒業後、

JET プログラムに応募し、現在は国際交流員として2年目。JET プログラム終了後も日本で働き続ける予定。趣味は囲碁、ジム、ゲームなど。